

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和7年11月8日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670800384
法人名	有限会社 精祥
事業所名	グループホーム やまぶき
所在地	鹿児島県出水市上鯖淵48番地1 (電話) 0996-63-4176
自己評価作成日	令和7年9月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和7年10月30日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

3階建て有料老人ホームことぶきの2階の一角に1ユニット9名の入居者が生活をされているグループホームやまぶきがあります。スロープを車で上がると駐車場が完備されており、入居者家族はスムーズに面会を行うことが可能となっています。駐車場には季節の花や野菜をプランターに植え散歩の時に花を眺めたり、野菜の成長や収穫を行っています。すぐそばには物干し場があり天気の良い日は洗濯物を干し、乾いたら取り込み入居者ご自身で洗濯物を畳み職員と一緒に居室へ片付けています。また、九州新幹線出水駅が徒歩8分の所にあり遠方からのご家族の面会時に便利に使われています。近辺には市役所や学校、商店街また目の前には米ノ津川も流れており河原まで散歩に歩いていくこともあります。1階にはコンビニエンスストアも入っており、面会時に買い物に出掛けたり、入居者は事務所で現金を預かっておりご家族の面会が無いときでも職員と買い物に出かけることが出来ます。ご家族によっては頻りに面会に来られないところもあり写真を多く記載したやまぶき便りを3月毎に郵送、またそれとは別に写真公開をお断り頂いているご家族にも喜んで頂けるよう日頃から撮りためている写真を最近の様子として一枚の紙にまとめお一人ずつお送りしている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、同法人の有料老人ホームと同じ建物の2階に開設し、併設の有料老人ホームとは合同の会議や研修・避難訓練等を実施及び職員間の協力体制を築いており、特に看護師とは健康管理や状態変化時の相談等の支援を日頃から行っている。
- ・管理者・職員は家族と利用者の関係が良好に保たれるよう、居室面会や外出での交流を支援し、年4回の広報紙や写真送付での近況報告に取り組んでいる。家族会では利用者と家族一緒に昼食が計画されている。
- ・管理者・職員は、利用者の力に応じた支援に取り組み、利用者の持てる力を維持できるように努めている。また、終末期には本人・家族の意向に沿って看取り介護を含めた支援に取り組んでいる。
- ・管理者・職員のコミュニケーションは良好であり、職員個々の健康や事情に配慮しながら、気兼ねなく休憩や休暇を取得し前向きに働けるよう職場環境作りに努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝行う申し送りの最後にやまぶきの理念・接遇目標・法人の理念を唱和し、理念に沿った支援を行うよう努めている。	理念はホール・事務所に掲示し運営規程やパンフレットに記載している。毎朝申し送り時に理念を唱和し確認してケアに取り組み、カンファレンス等でケアの振り返りをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入している。行事参加のお誘いを頂いているが、時間の調整が困難であり参加出来ていない。毎年施設駐車場で開催されていた夏祭りもコロナ過のなか施設内、入居者のみで開催している。	自治会に加入しているが、行事参加は実施時間の関係で難しく文化祭への出展のみである。中学生の職場体験学習受け入れや住民からの野菜の差入れ等の交流は大切に継続している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	2カ月に一度、身元引受人・自治会長・民生委員・市職員とで運営推進会議を行い、活動内容の報告と意見を頂き翌月議事録としてそれぞれに届けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前行っていた毎月の様子を伝える手紙はそれを見るだけで本人の様子がわかると面会が少なかったため、やまぶき便りを4月から再発行して入居者お一人お一人に日頃の様子として写真のみを一枚の用紙に印刷し郵送している。	2ヶ月に1回第2火曜日に運営推進会議を実施し、ヒヤリハットを含めた状況報告と意見交換を行っており、家族には議事録を送付している。クッションとして使える防災頭巾についての助言等があり、サービスの向上に活かせるよう検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	相談に対しては電話連絡にて丁寧な答えをいただいている。また、運営推進会議議事録は窓口にて提出している。	市の担当者とは、運営推進会議時の意見交換や報告に出向いたり電話での相談で連携を図っており、市の研修会にも参加している。生活保護担当者は来訪もあり、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	併設施設職員と共同で組織された身体拘束廃止委員会があり、毎月開催される委員会活動の中で各施設の身体拘束をしないケアに対し実情の確認と理解をすることで併設施設全体で取り組んでいる。	法人で指針を作成し、委員会は毎月法人内3施設合同のリモート会議を行っており、研修会は年2回の実施である。スピーチロックに気づいた時は管理者から注意を促し、玄関は施錠せず法人内職員の目配り・連絡等の連携協力の下、職員が散歩に同行することで、行動を制限しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会の委員活動の中で一年間の学習内容を定めそれに沿って学習会を開催し、職員の学ぶ機会を得ている。学習会後にはアンケートを取りその学習内容に対して理解を得られたか確認を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度に関しては以前の入居者が利用されており職員も学習し理解していた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居前の事前調査で入居者と家族から細かいところまで尋ね不安の解消に努めている。契約締結時には事務手続き・計画作成者からの説明等も含め時間的余裕が必要であることも説明し理解と納得を得る説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>2カ月に一度開催される運営推進会議へ参加された際に意見や要望を尋ね、面会に来られた際にも要望等の聞き取りを行っている。</p>	<p>利用者には日々の生活の中で職員から声をかけて要望を聞き、個別の外出支援等に対応している。家族には面会時や運営推進会議・家族会で要望を聞き、職員間で対応を検討する他、必要時は法人に報告している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月開催される部署会議に全職員が出席出来る体制を組みその中で意見を聞き、夜勤者からは事前に聞き込みを行っている。</p>	<p>管理者は部署会議で意見を聞く機会を設けており、勤務時間を見直して個々の負担軽減を図る業務改善にも反映している。個別面談は必要時に行い、個別相談は随時、管理者が受けて対応している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員全員に担当入居者を決めその職員を中心に状態に応じた対応や環境整備を検討し行っている。また研修内容に応じ職員へ参加を促している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	併設事業所内と共同の研修や外部研修に対し研修参加を促している。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	同業者による研修に進んで参加しネットワークづくりに臨んでいるがその時だけで終わってしまいネットワーク作りまでには至っていない。伝達講習を行う事で職員のサービスの質を高める取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	やまぶきでの生活が始まる時に不安な気持ちにならないよう寄り添い本人の要望に耳を傾けている。しばらくの間は家族との連絡も蜜に行い様子を伝えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から都度家族の要望や本人の不安に思っている事を聞きやまぶきでの安心・安全な生活が送れるよう考慮し良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談の段階で入居者にとって何が必要かを見極め環境を整えることで本人の心配や不安をなるべく取り除き信頼関係を築けるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	天気の良い日は職員と一緒に外に洗濯物を干しに行き夕方には取り込み畳んだら居室に片付ける。野菜の皮を剥いて頂くなど出来る事を見つけ手伝いの声掛けを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>遠方の家族に電話を掛けて頂き話をされる時間を作っている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>帰宅願望の強い入居者の家族に相談し家の鍵を開けて頂き職員同行で仏壇に手を合わせに行き家族も本人様も大変喜ばれた。</p>	<p>居室面会や外出での家族との交流を支援し、事業所から年4回の広報紙や個別の写真送付で近況報告を行い、関係が途切れないように取り組んでいる。職員が自宅や納骨堂・以前の職場に同行することもある。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日中はテーブル席やソファにて過ごされている。会話が成立していない時は職員が間に入り穏やかに過ごされるよう支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>連絡や相談があれば都度対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の希望や意向の把握に努め出来る限りその意向に沿うよう努めている。	日常の利用者と職員の会話からや個別に話を聞いて、本人の思いを把握するように努め、家族の協力も得て対応できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報を収集している。入居後も面会時、電話連絡時には必要な情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床後はホールで過ごされる入居者がほとんどである。車椅子使用の入居者は昼食後午睡をして頂いている。足の浮腫のある入居者はソファで挙上を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	部署会議の中や状態に変化があった時は担当者を中心に意見やアイデアを貰い期間を決め実践と振り返りを行いモニタリングを行っている。家族にもその内容を伝え安心・安全に生活できるよう支援している。	担当者会議で家族や担当職員・管理者が話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月に1回、モニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直している。状況変化等の必要時にも見直し、現状に即した計画にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介助後すぐ記録するようにしている。付箋を準備し誰が何の記録を記入すると書き込み記録漏れを防いでいる。多くのチェック表を作成し押印のみにすることで入居者と触れ合う時間を増やしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族のニーズに都度柔軟に対応している。看護面に対しても併設施設の看護師に相談や応援を貰える体制を整えている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を文書している地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節や時間を考慮し本人の希望される外出に出掛けている。また、初詣には本人の通い慣れた自宅近くの神社へ参っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際本人の希望でかかりつけ医の変更の有無を確認し協力医療機関による月2回の往診を受けている。体調変化見られる時は職員同行で受診し、その結果を家族へ電話連絡している。	契約時に確認し、全員協力医療機関の往診を月2回受けている。他科受診は職員が同行し結果を電話で家族に報告している。併設施設の看護師の協力及び協力医療機関との24時間医療連携体制があり、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>状態の変化に気付いたときは併設施設の看護員に確認と相談を依頼し、その指示に応じている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された時は連携室との連絡を行い状態の確認に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に急変時や終末期における医療等に関する意思確認書に記入していただき、状態に変化がある時は都度意思確認書を上書きする事が可能である事を伝えている。</p>	<p>重度化の場合の対応について契約時に指針で説明し、意思確認書をもっており、入居後も意思確認を重ねて行っている。重度化の場合、医師から家族に病状を説明し、家族の意向を確認している。家族の意向に沿って看取り介護を含めた支援に取り組み、看取り事例がある。職員研修・カンファレンスを実施している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>併設施設看護員を中心に急変時、事故発生時、応急手当等の学習会を行い参加出来なかった職員にも伝達し、その内容をタブレットに入力しいつでも確認出来るようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回防災委委員メンバーを主体に水害、火災、それぞれ夜間対応、日中対応とで繰り返し学習の機会を作っている。</p>	<p>年2回併設施設と合同の避難訓練を昼夜想定で実施し、2回消防署の立ち合いを受けている。年1回水害の自主避難訓練も実施している。事業継続計画（BCP）を策定し、研修及び見直しも行っている。非常用の備蓄は、7日分の水・食料の米・缶詰・レトルト食品及びカセットコンロを準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>毎朝の申し送りで施設の理念を唱和し、尊厳を損ねないような介助を行うよう職員間で都度声掛けを行い対応している。</p>	<p>研修を実施し、入室時の声掛け、入浴・排泄介助時の羞恥心への配慮等を基本に、さん付けで呼びかけ、馴れ馴れしくならないよう言葉かけや対応に気を付けている。申し送りは内容がわからないように、プライバシー保護に努めている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>出来るだけ本人の意向に沿えるように伝え、二つの案を出し本人に選んでいただくよう声掛けしている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>車椅子で生活されている入居者には昼食後の午睡の案内を行っている。ファストフードや飲食店が近くにあるため外出支援で利用している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>入浴準備で本人に衣類を選んで頂く為季節に応じた衣類以外は定期的に交換を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来上がりが色とりどりで見た目から食欲が湧くように、またかむ力を観察し食事形態を変え支援している。	職員が献立を作成し、ミキサー食等の個々に応じた食事形態で提供し利用者も一緒に下ごしらえやテーブル拭きをしている。季節の行事食や誕生会の特別メニュー・ケーキ等、食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重をもとに一人一人の一日に必要な最低水分量を計算し、水分チェック表にその量を記載し時間ごとに摂取した量を記入し一日の水分量を熱計表に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の緑茶でのうがいや食後の歯磨きとうがいをやっている。また入居者によってはスポンジブラシを使用しケアに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間のパット交換に関しては排尿量の計測を行い夜間に吸収量の多いパットを使用し、なるべく入眠の妨げにならないよう努めている。日中のトイレ誘導はある程度の時間を決め行い、また入居者の動きを見てトイレ誘導を行っている。	チェック表を参考に様子を見て声掛けし、5名の利用者は昼夜共トイレでの排泄を支援しており、排泄用品は各自に適したものを選択して使用している。夜間のみパット交換をする利用者もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼るのではなく、野菜を多めに摂って頂けるメニューを心掛けている。散歩も日常的に取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の声掛けを行い、拒否のあった時は他の入居者へ声掛けを行い気持ちよく入浴して頂いている。家族との外出や受診の際には時間や曜日の変更を行い入浴支援を行っている。	週2回入浴を支援し、浴槽利用の2人以外はシャワー浴であり、2人介助も実施し安心して入浴できるよう支援している。ボナン湯や数種類の入浴剤を楽しんでいる。入浴を嫌がる場合も、声掛けを工夫して入浴している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子使用の入居者は昼食後居室にて午睡を行っている。足の浮腫が目立つ入居者にはソファへ移って頂き足の挙上を行っている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月に2回の往診時にかかりつけ医に状態の報告を行い処方された薬は全員分の処方箋をコピーしファイルにまとめすぐ目の付くところへ置き効能や副作用の確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	面会時家族から好みの食べ物や飲み物を預かり提供している。家族が作成したパズルを職員と一緒にいき気分転換を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	担当職員が本人様の希望を聞き取り外食やスイーツを食べに一緒に出かけている。帰宅願望の強い入居者の家族へ一時帰宅の調整を行っている。家族との調整が難しいときは職員と一緒に仏壇へ手を合わせるため出かけたこともある。	戸外で外気浴をしている。計画を作成し、初詣や季節の花見ドライブに出かけ、年3～4回は個別支援で外食に出かけている。家族との外出で自宅や墓参り・美容院・外食等に出掛ける利用者もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時に小口預かりの話をさせていただき事務所金庫に預かり受診や本人の必要品購入に充てている。1Fのコンビニへ本人と同行し買い物にも出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	母の日や誕生日にプレゼントが届いた時はお礼の電話を掛け本人と話ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昼食後午睡をされる入居者の居室には事前に温度調整を行い心地よく休んでいただくよう配慮している。入居される際は愛用品の持ち込みを案内している。	ホールは空気清浄機で過ごしやすい温度に調整し、常時窓を少し開けて換気を十分行っている。季節の飾りつけや花で季節を感じられるよう工夫し、車いすや歩行器の動線を確保してテーブルが配置されている。利用者がくつろげるよう廊下にも数ヶ所のソファを置いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほとんどの入居者がホール内のテーブル席もしくは近くのソファにて過ごされる。気の合う入居者同士で過ごされるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際に慣れ親しんだものの持ち込みを案内している。持ち物が少ない時は施設のソファ等を入れ込み居心地の良い部屋となるよう工夫している。	居室にはベッドやクローゼット・床頭台・ソファ・タンス・寝具・エアコンが備えてあり、本人は使い慣れた毛布やテレビ・冷蔵庫・ハンガーラックを持ち込んだり、ぬいぐるみや写真・造花を飾って居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限りご自分の衣類やタオルは畳んでいただき、居室内のタンスに片づけるまで職員と一緒にやっている。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない